

2024 年度 高等学院同窓会学術研究奨励金
研究成果報告書概要（WEB 公開用）高等学院 長
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [吉田 遥]

学年・組・番号 [2 年 E 組 16 番]

研究課題： 失われた 30 年における日本の産業と政府の産業政策の分析

(英文) Analysis of Japanese industry and government industrial policy during
“the lost 30 years”

研究概要：

(研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について 200～400 字で記入してください)

バブル崩壊後の日本は停滞が続いてきた。これがいわゆる「失われた 30 年」だ。しかし、近頃の日本を取り巻く情勢は劇的に変化し、停滞していた日本経済には、良い兆候がみられている。今年、日経平均株価はバブル期を上回る史上最高値をつけた。加えて、生鮮食品及びエネルギーを除く 2024 年の物価上昇率は 2.4% と高水準であり、それを上回る 5.1% の賃金上昇を実現している。他方で、日本が未だに抱える課題も多い。その一つが産業の衰退だ。近ごろは TSMC の進出や、ラピダスの設立等、半導体産業で明るいニュースは聞かれるが、IMD 発表の世界競争力ランキングで 2024 年に 38 位となった。本研究ではこのような日本の産業について論じる。この期間の、政府の産業政策と、日本の産業の変遷と成否の要因について分析し、今後の日本がとるべき産業政策について考察する。

研究成果：

(研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について 200～400 字で記入してください)

失われた 30 年は、日本の産業全体としては衰退あるいは停滞していた期間であった。しかし、同期間中には数多くの産業政策が行われており、その中には失敗したもの、一定の効果を収めたものの双方が存在した。その要因については、政府が過度な介入を行ったり、単に補助金をばらまいたりしただけの政策は失敗する傾向がみられた。一方で、民間を巻き込んだり、世界の傾向を踏まえたりしたものは効果を発揮する傾向にあった。これらのことから、今後の日本がとるべき産業政策は、あくまでも主軸は民間におきつつも、その民間企業の活動を自由化するものや、補助金を投じるにしても、そのタイミングや金額、出資元などには十分に配慮したものである必要があると言えるだろう。

研究者：(以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する)

研究代表者 2 年 E 組 吉田 遥

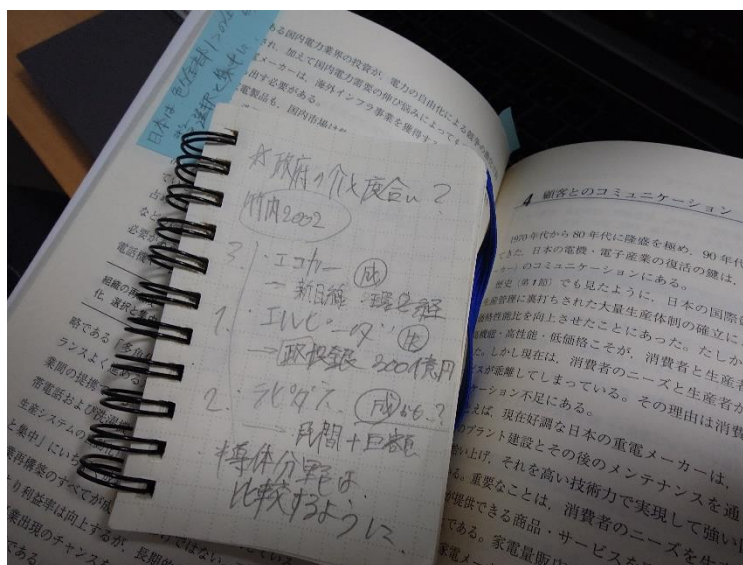
研究分担者

担当教諭 柿沼亮介

(受給額： 26000 円)

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名が WEB ページ上で公開されることに同意します
(次のページに続きます)

(研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください)



以上